Kracie

The Japan Society for Oriental Medicine NAGOYA

第68回日本東洋医学会学術総会スポンサードセミナー

スポンサードセミナー3

フレイルと人参養栄湯

－健康長寿に向けて－

日時 2017年6月4日(日) 13:30～14:30

会場 第5会場 名古屋国際会議場 224会議室
〒456-0036　名古屋市熱田区熱田西町1番1号

座　長 加島 雅之 先生
熊本赤十字病院 総合内科・総合診療科 副部長

演　者 乾 明夫 先生
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 心身内科学分野 教授

共　催

第68回日本東洋医学会学術総会　クラシエ 薬品株式会社

フレイルと人参養栄湯

―健康長寿に向けて―

高齢化の進む我が国において、予防医学の立場から注目されているのが、サルコペニアを基礎としたフレイル（frailty）である。サルコペニア（sarcopenia）は骨格筋萎縮をさし、加齢に伴うGH-IGF1系や性ホルモンの低下を背景に、急速に筋肉量の減少を生じやすい。フレイルは漢方で言う未病病態であり、フレイルを予防、加療することによる健康寿命の延長が愁眉の課題になっている。

フレイルは補剤の良い適応であり、多成分系を特徴とする漢方は、多様な身体疾患や食欲不振・不安・抑うつ・認知など、心身両面の異常を示すフレイルの治療に威力を発揮するものと期待される。人参養栄湯は最強の補剤といわれ、がんの緩和医療などに広く応用されてきた。人参養栄湯は多発性骨髄腫や肝がん患者の疲労を軽減し、貧血や血小板低下、肝機能を改善させる報告がある。また食欲を促進し、サルコペニアを軽減する。高齢者においては免疫機能の強化、感染の抑制など、在宅医療への応用やフレイルの予防・改善効果が期待される。

人参養栄湯の作用には、人参サポニンであるギンセノシドの報告が動物モデルを用いて数多くなされている。ギンセノシドは疲労、抑うつを軽減し、末梢では骨密度の増加、動脈硬化巣（アテロームプラーク）の減少、認知機能や老化徴候の改善、前立腺肥大の抑制など、多彩な作用が報告されている。人参以外にも、白朮（アトラクチレノイドⅢ）や遠志（テヌイゲニン）によるエネルギー代謝改善・神経保護作用や認知・情動（抑うつ）への好影響が報告されている。黄耆（アストロガロノシド）は高分子型アディポネクチン（活性型）を増加させ、インスリン感受性を亢進させる。五味子（シサンドリン）は骨格筋代謝の重要因子PGC1-αを介して疲労を改善し、運動能力を増大させる。陳皮（ヘスペリジン・ナリルチン）は神経保護作用を有し、老化に伴う脱ミエリン化や認知機能を改善する。陳皮、茯苓（パキマ酸）、甘草や人参由来パナキサジオールは、グレリンシグナリングを改善し、食欲促進・サルコペニア改善など人参養栄湯の作用機構の一端を担うものと思われる。人参は骨髄の造血系や間葉系幹細胞への刺激作用が知られ、臓器組織の修復再生に関わるものと考えられる。

本講演では、健康長寿に及ぼす人参養栄湯の作用とそのメカニズムを、エビデンスをもとにまたアンチエイジングの立場から述べてみたい。

乾 明夫 先生　御略歴

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

1978年 3月　神戸大学医学部卒業
1978年 6月　神戸大学医学部附属病院医員（研修医）に任用
1984年 7月　神戸大学医学部助手に任用
1997年12月　神戸大学医学部附属病院講師に任用
2000年 1月　神戸大学医学部助教授に任用
2001年 4月　神戸大学大学院医学系研究科 応用分子講座 消化器代謝病学分野（旧二内科）助教授に任用
2004年10月　神戸大学病院 糖尿病代謝内科診療科長に任用
2005年 1月　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会・行動医学講座 行動医学分野（現心身内科学分野）教授
及び鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 心身医療科診療科長に任用
2009年 4月　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻長に任用
2012年 7月　鹿児島大学病院 漢方診療センター長に任用 現在に至る

専門・指導医

日本内科学会指導医・認定医、日本心療内科学会専門医、日本消化器病学会指導医・専門医
日本内分泌学会指導医・専門医、日本老年病学会指導医、日本臨床薬理学会指導医、
日本肥満学会専門医